

間は地方交通の線となったので、昭和36・4・1北見・網走間を石北本線に編入、池田・北見間は線名を両端の駅名によって池北線とした。(高橋昌保)

ちゅうおうてつどうがくえん 中央鉄道学園 国鉄の本社附属機関。職員の研修・養成および訓練、教材の編集および作成、職員の教育に関する調査および研究、教育技術の指導、技能の検定ならびに、これらの業務を行なうのに必要な施設および機械器具の新設、製作、改良、保存および管理、土地の管理を行なう養成機関の一つであって、国鉄における養成機関の中心をなすものである。

本所は東京都分寺市に設置されており、分教所は静岡県三島市に置かれている。

昭和36・4・1、教育程度別に編成されていた教育体系を職能部門別に改編して、教育養成の能率および効果の一段の向上と責任体制の強化をはかるため、中央鉄道教習所を中央鉄道学園と改称するとともに、その組織を改正した。また、昭和38・6* 鉄道労働科学研究所の設置に伴い、附属機関であった能率科学研究所が廃止され、同年12月の学長室の改組を経て次のような組織となった。

内部組織は、学長室(調査役・職能教育研究室・視聴覚教育研究室)、総務部(総務課・経理課・整備課)、教務部(教務課・生徒課・通信教育課)、経営研修部(研修第一科・研修第二科・指導科・船舶科)、教育第一部(管理科・営業科・運輸公安科・文科)、教育第二部(運転第一科・運転第二科・運転第三科・機械科・自動車科)、教育第三部(土木科・建築科・線路科・工学科・修機科)、教育第四部(電力科・信号科・通信科・理科)および図書館となっている。

教育訓練の課程は、研修課程(管理監督の地位にある職員および、これに準ずる職員に対する幹部研修)、研究課程(大学卒業新規採用者の教育)、大学課程(将来の幹部職員の教育)、高等課程(現場中堅職員の教育)、普通課程(一般職員の教育)、初等課程(中学校卒業新規採用者の教育)および通信教育講座の課程となっている。

学長、調査役、部長、図書館長、課長、科長、室長、学務主事、講師などが置かれ、その数は約360人である。

(宮坂正直)

ちゅうおうてつどうびょういん 中央鉄道病院 国鉄の本社附属機関。職員その家族および旅客の診療、疾べい予防その他の医務(保健管理所において行なう保健管理に関する医務を除く)、保健および医療の技術の調査および研究、これらの業務を行なうのに必要な施設および機械器具の新設、製作、改良、保存および管理、土地の管理を担当する直営医療機関の一つであって、国鉄における直営医療機関の中心をなすものである。

本院は東京都渋谷区に設置されており、分室が東京都千代田区に置かれている。

昭和33・10・1に医療の進歩向上をはかるため、東京鉄道管理局に所属していた東京鉄道病院を同局から分離して本社附属機関とするとともに、中央鉄道病院と改称したものである。

医療法第4条に規定する診療科と施設を有するもので、国鉄における第1種病院の一つである。中央病院としての内容を整備した病院で、インターン指定病院(医科大学を出た者を国家試験を受けさせるまで1箇年間、病院で実地修練を行なわせるため厚生大臣が指定した病院)であるほか、結核予防法第36条に基づく指定医療機関でもある。

内部組織は、事務部(庶務課・経理課・医事課・医療調査室)・

第一内科・第二内科・第三内科・神経科・小児科・外科・胸部外科・整形外科・脳外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・呼吸器科・歯科・放射線科・麻酔科・臨床検査科・薬剤科・看護室および物療室となっている。

附属機関として看護学園を置いて、看護婦および看護婦になろうとする者の養成を行なっている。

院長、副院長、部長、医長、副医長、薬剤長、副薬剤長、課長、室長、総婦長、看護婦、レントゲン技士、助産婦、栄養士その他の職が置かれている。(宮坂正直)

ちゅうにゅうこうほう 注入工法 注入は使用目的によって種々の工法がある。たとえば掘きく中の湧水阻止のため、または湧水があることを予想して掘きく前あらかじめセメント注入を行なうことがしばしばある。次に化学的薬液法として、セメント注入によって完全にその間げきを充てんし、湧水を阻止することが困難である場合、その欠陥を補うために薬液を注入して湧水を防止し、あるいは地山を凝固させて掘きくを容易にする方法がある。また覆工の背面があかないようにするため、一種の裏込工としてモルタルを注入する注入工がある。

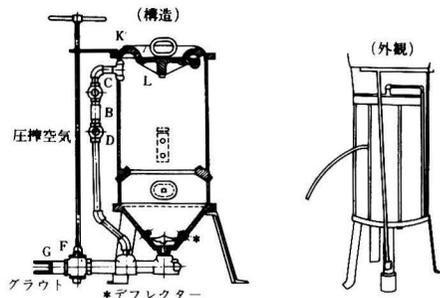


図-2 高圧セメント注入ポンプ

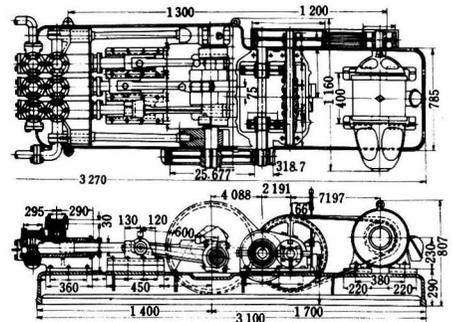
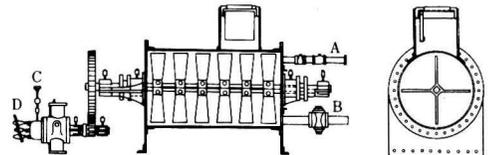


図-3 低圧セメント注入ポンプ



裏込注入にはカニフミキサー(図-1)を、地山注入にはグラウトポンプ(図-2・3)を用いる。

参考文献 加納俊二・桑原 弥寿雄著 トンネル施工法。(佐久間 貞二)